

照徑以後

上田三四二歌集



現代短歌全集

55

照徑以後

上田三四一歌集

短歌新聞社

照徑以後

現代短歌全集55

昭和63年1月14日 初版発行

昭和63年4月5日 再版発行

著者 上田三四二

発行人 石黒清介

印刷 協同印刷KK

発行所 短歌新聞社

〒166 東京都杉並区高円寺南4-43-9

振替口座 東京 5-21683

電話 03 (312) 9185

1092-000389-4362

定価 1800円

目次

昭和六十年

除夜

あるき仏

火の祈り

行楽

道のうへ

冬雑詠

沈疴日々 一

昭和六十一年

沈疴日々 二

今生の雪

七

〇

五

三

六

三

元

五

七

菊 枕

所 願

地上の花

鳥仲間

遊園地

夕雲と紅葉

惜 秋

焚 火

雪と楽

昭和六十二年

初日影

夢供養

三

九

七

一〇三

一〇六

一〇〇

一三三

一三〇

一三四

一七

一九

待春

春禱

山色溪声

略歴

あとがき

一三

一四

一五

一六

一三

照徑以後

除　　夜

昭和六十年

屋根こえてくる除夜の鐘映像のなかに打つ鐘
ふたつ響^なりあふ

臟摘りていのち生きえしひと年をおくると大
き鐘の鳴りいづ

ことごとく日月はなごり元日の屠蘇も餅もちひも別
れをふくむ

あらたまる心はあらたまる周辺めぐりにて去年こぞ今年ことし
この塵なき書齋

あるき仏

すこやけき日の食欲のかへり来^こよやきとりの
香はゆく道にあり

ともなはれ海見にゆくといづるとき障害者手
帳も忘れずあらん

乗替のながき歩廊の人のながれ病みてよりわ
れのいたく遅るる

頑丈にありへてきつるわが妻よ妻病むくるし
みの歌を選りゐつ

爪根きょうこんにいでたる星のごとき翳りいつしかうつ
りそのところ切る

かげりある予後をすかすと浅春のひと日シン
チグラムを撮られをり

入院のまへに使ひてゐし糊がしぼりだしにく
くなりて引出にあり

絆創膏がーゼなどとふうとましきもの身辺に
ありて生きをり

ふかき病^{やまひ}みぬちにのみて野仏のそばゆくわれ
はあるき仏か